

水田農業営農集団の評価法						
<p>[要約] 水田農業営農集団を評価して優良営農集団を選定する場合、種々の評価基準による階層図を作成し、AHP手法を用いて評価することによって、慣行の採点法よりも普遍的、客観的な評価ができる。</p>						
三重県農業技術センター・経営部・情報システム担当			連絡先	05984-2-6356		
部会名	経営部会	専門	情報処理	対象	分類	行政

[背景・ねらい]

水田農業における営農集団を評価して優良集団を選定する場合、これまでは調査資料にもとづいた採点法によって行ってきた。この方法では評価・選定する人や社会的背景によって各評価基準のウェイトが異なることや配点の不適合などによって、同じレベルで評価できないことがある。

そこで、水田農業営農集団の評価における合意形成と意志決定の客観化のため、AHP手法の利用について検討する。

[成果の内容・特徴]

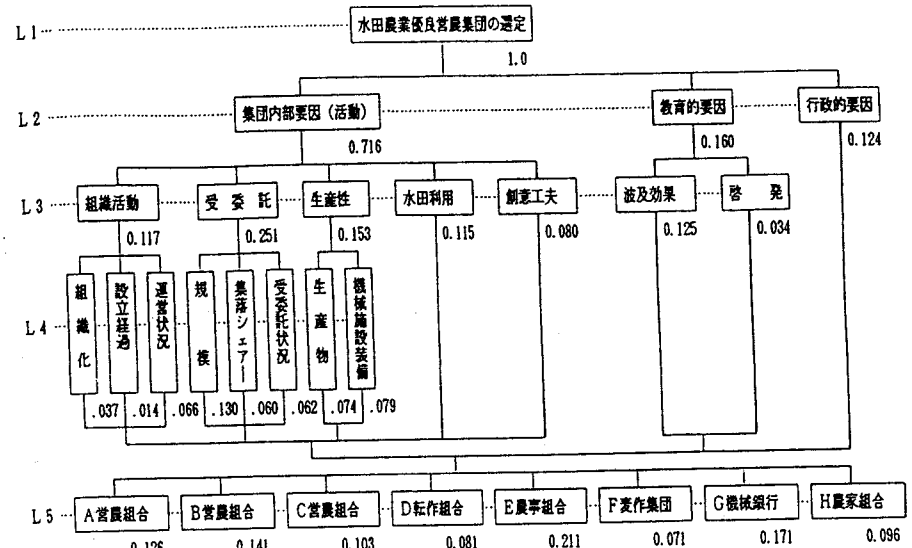
水田農業営農集団を評価するため組織活動、受委託、生産性、水田利用、創意工夫、波及効果、啓発、行政的要因などの評価基準によって階層図を作成し、6名のアンケート調査にもとづいてAHP手法による評価を実施する。また、この結果を慣行採点法と比較検討する。

- (1) AHP手法と慣行採点法の集団内部要因に関する評価はよく一致する。
- (2) AHP手法における評価基準に対するウェイトは現在の調査員の意志をよく反映している。
- (3) 総合評価にたいする調査員の合意形成が円滑になされ、集団評価における意志決定の客観化の点からもAHP手法の有効性が認められる。

[成果の活用面・留意点]

- (1) 営農集団の評価基準に計量化の難しい主観に基づくものが多く含まれる場合などではAHP手法は特に有効である。
- (2) 慣行採点法の評価項目に対する配点を検討する場合にもAHP手法は有効である。また、評価基準に対するウェイトの変化が総合評価に与える影響はAHPの感度分析によってわかる。

[具体的データ]



図・1 水田農業営農集団の評価における階層図と各項目の重要度

注) 図中の数字は評価基準および代替案のウェイト

表・1 慣行採点法とAHPの営農集団評価結果

営農集団名	慣行採点法		AHP手法	
	点数	順位	ウェイト	順位
A 営農集団	7.4	2	0.126	4
B 兼営営農組合	7.1	3	0.141	3
C 営農組合	6.7	5	0.103	5
D 転作組合	6.0	7	0.081	7
E 農事組合	8.5	1	0.211	1
F 農作集団	5.8	8	0.071	8
G 農業機械銀行	7.0	4	0.171	2
H 農家組合	6.5	6	0.096	6

営農集団の採点項目	点数	AHPの重みづけ	
		ウェイト	割合(%)
組織活動	333333 15	0.117	16
受委託の状況	101510 35	0.251	35
水田利用	10109 25	0.115	16
生産性	555 15	0.153	22
集団の創意工夫、取組み	55 10	0.080	11
合計	100	0.716	100

[その他]

研究課題名：農業情報の検索と解析のシステム化

(3) 水田農業営農集団の評価法

予算区分：県単

研究期間：平成4年度(平成1~6年)

研究担当者：坂本 登・森 斉